

ジョローナ（泣く女）

Llorona

あなたに嘘をついたことはない
あなたに語るのは真実だけ
眠りの中であなたを夢み
目覚めてやはりあなたを夢みる

ただあなただけを愛していた
そのために生まれたのだから
いつどんなふうにとは知らずとも
あなたのために死ぬだろう

あなたの瞳はふたつの松明
千の心を焼き尽くす
あなたの唇は薔薇
情熱を掻きたてる

私には大きな傷がある
死に至るほどではないけれど
生は生ではないのだ
あなたを愛し、失ってから

ここであなたを待っている
山の酒を持って
地の底にまであなたに捧げに行こう
歌いながら

ふつうの人たちへの賛歌

Viva los Humanos

平穏に生きてゆく人たち
通りすがりに悪さなどしない人たち
そんな人たち万歳

ものを創りあげていく人たち
自らの手で
求めるより与えることを知る人たち
そんな人たち万歳

そんな人たちこそ称賛に値する
ニスを塗らなくても輝く人たち
惨めにも不幸にならないよう
一人でも口笛吹いて歩いていく人たち

口づけに心の半分を込めることので
きる人たち、そういう人たち

自らの野生を御しつつ
生き抜いていく人たち
そんな人たち万歳

日々を生きていくために
日記を書き続けることを止めない人たち
そんな人たち万歳

そんな人たちこそ称賛に値する
一献の酒を捧げ
地平が灰色に塗りつぶされても
歌い続けるそんな人たち

幸せなときに、ただ微笑んでいる
そんな人たち万歳

涙 Lágrimas

涙に濡れて、私は横になる
さらに辛い思いで、私は目覚める

私の胸にあるのは、
ただあなたを慕う
その想いばかり

でも私にあるのは、深い失望
胸の中にある、罪の意識

あなたを愛してなどいない
あなたにそう言う
そして夜にはあなたの夢を見る

いつか私は死ぬだろう
この苦しみを抱えて
あなたの気持ちを得られないまま

部屋の隅にショールを広げ
私は静かに横になる

私が死にゆくそのときに
もしもあなたが泣いてくれるとしたら

その涙...ただ一粒の涙のために
私は喜んで死ぬだろう

ククルクク・パロマ Cucurrucucu Paloma

人が言うには、夜ごと
彼は涙に暮れたと。
人が言うには、彼は何も食わず、飲む
ことすらもせずに。

人は誓って言うには、天さえも
彼の泣き声を聞いて、身を震わせた
彼女のために苦しんで
死ぬまでその名を呼び続けていたと

アイ、アイ、アイ...泣いていた
アイ、アイ、アイ...苦悶していた
アイ、アイ、アイ...歌っていた
死に至る情熱ゆえに...命を落とした

人が言うには、一羽の悲しげな鳩が
早朝に空家の扉を次々に探していたと
人は誓って言うには、その鳩は
彼の魂以外の何者でもなかったと
まだ不実な女の帰りを願っているのだと

ククルクク...鳩よ、
ククルクク...泣かないで
石ころになど愛のことなどわからない

鳩よ、もう泣かないで

希望について Hablo de la Esperanza

人間として苦しんでいるのではない
あなたたちの友として
苦しんでいるのではない
いったい何について苦しんでいるのか
さえわからない
けれどこの苦しみを苦しんでいる
どこから来ているのかわからない
この苦しみを
説明もなく理由もないこの苦しみを
ただ苦しんでいる
それは底の深い痛み
この理由のない痛み
理由に欠ける痛み
それ自身が痛みである痛み

この痛み
誇りある者なら誰でも苦しむであら
う痛み
この痛み
生きているものでなくても
誰でも苦しむであらう痛み
この痛み
ただ喉にあるものではなく
何者もその理由でありうる苦しみを

もう、これ以上痛みたくはない
希望について話そう

泣きたいだけ泣くがいい Llorar

泣いて気がすむなら泣くがいい
泣くことで、浮かび上がれるなら
魂から、肌震わせて
覗いている嘆きを投げつける

心を注ぎ、苦しみを吐き出し
悲しみを遠くに投げつける
泣き叫び、責任を世界になすり、
黙らずに、母親も欺き
沈黙に爪を立てて引き裂き

風に逆らい、涙を流し
感情を安らがせるがいい
なぜなら泣くことは
歌と同じく、時間と同じく
苦しみを癒すから

泣いて気がすむなら泣くがいい
きっと楽になれるから
魂から、肌震わせて
かつてこんなに泣いたことがないほど
泣いてごらん

新たなセヴェーラのアド Nuevo Fado de la Severa

カピラン通り、ラベンダーの繁る小路
愛する人の歩く道なら
その踏みしめる路傍の石にすら
私は口づける

私の寝室はあなたには開いている
だから愛しい人よ、入ってきて
そうすれば私の心は
喜びで満たされる

あなたを一目見た日から
自分の運命を知った
わが愛する自由な方
宿命に抱かれて私は生き
あなたに抱かれて私は死ぬ

わたしを見て Mirame bien

私を見て、何も隠していないから
ありのままの私を見て
何も言わない、ただ望むのは
自分に嘘をつかないで

お互いに判っている
静けさの中で、私たちは互いの声を聞き
互いに通じ合うなにかがある
心の扉を開いて

それでも言葉が必要というなら
私の意志がわからないなら
私の眼を見てもわからないなら
眼を閉じて、心で感じて

よく聞いて、何も隠していないから
あなたのためにとっておきの
秘密を言うわ
答えは、ただイエスよ、と。

愛の苦しみ Tu, Mi Delirio

もしもあなたに伝えることができたなら
私の心の底にある
あなたへの愛が
どれほど無限のものかを

私の魂を抱く、
この狂おしい愛は
私の心をかき乱す情熱

いつもあなたは私と共にいる
私の悲しみの中に
あなたは私の悩み、
そして苦しみの中にいる

なぜならあなたの中に
私の人生が閉じこめられてしまうから
あなたが共にいてくれないなら
私は不幸....
あなたが共にいてくれれば
情熱、妄想、そして私は幸せ
なぜならあなたも私を愛してくれる....

赤い空 Cielo Rojo

あなたの愛情を失って
私は歩いていく
どうしていいかわからずに
あなたのことを訊ねても
空も答えてはくれない

あなたを忘れることができない
あなたを失ったその夜から
あなたのことを考えるにつけ
猜疑と嫉妬の陰が私を包むだけ

あなたを捜させて
もう一度見つけることができたなら
私のもとに戻ってほしい
過去のことは忘れ
昨日のことは思い出さず

私が眠っているとき
夢みるのは青い空のもと
二人が一緒にいる姿
けれど目覚めると
空は赤く、あなたはいない
あの悲しい別れが、私のせいだとして
お願いだから戻っておくれ
もう一度愛してほしい

あなたを捜させて....

三つの言葉 Tres Palabras

私の秘密の告白を聞いて
この渴いた心から出た言葉を

三つの言葉ですべてが語れる
心からのその言葉を

あなたの手をとらせて、私の手をとって
私の不安をあなたに打ち明けたいから

それはたった三つの言葉、私の苦しみ
その言葉は「あなた-が-好き」

あなたに En Tí

こちらに来て
私を川に連れて行って
こちらに来て、私は寒いので

あなたが口づけてくれないなら
私から口づける
あなたにためらいがあるなら
私が近づく
だからこちらに来て
私を抱きしめて

こちらに来て
あなたの上着をちょうだい
イエスと言って
私といれば寒くはないわ

あなたが私に触れたいなら
私があなただけに触れる
そこで見つかるものを
私は拒めない
だからこちらに来て
そして抱きしめて

ジョローナ II Llorona II

死者はその理由を捜す
この世を離れていくために
そして私は深い愛ゆえ
いまだこの世に生きている

いや明日にでも死んでもいい
必要であるなら今日にでも
ただ、あなたの墓標を建てるまで
私はどこにも行きはしない

魚は口から朽ちると賢人は言う
あなたが望むなら
私はその場で死んでもいい
あなたに口づけたその罪で

このアルバムは、無から生まれた。なんの企画もなく意図もなく予定もないところから。

2月のある日、我が友人で、メキシコシティでも有数のエスピラル・スタジオの所有者ハビエル・ロペスが、スタジオに空き日があったので、1~2曲デモでも録音したら、と何気なしに持ちかけてくれたのが発端だった。2日程度なら無料で貸すよ、友達だから、と。

その夜、私が夕食を取っていた店で、ピアニストのレオナルド・サンバルに会った。彼とはかつて一度だけ仕事をしたことがある。アルマンド・マンサネーロの音楽監督をはじめ、叙情的なピアノを弾くことにかけてはメキシコ随一の、私の大好きな凄腕ピアニストだ。

一曲だけ、2年前に急死した共通の親友、マルシアル・アレハンドロが私に遺した詩がある。デモ録音につきあってくれないか、と。

その翌日、レオナルドの練習スタジオで、私たちは音合わせをした。マルシアルの遺作のひとつにして、メキシコの伝統曲『ジョローナ』のための書き下ろしの別れの歌を。一度のセッションで、私たちは目を見合わせ、レオナルドは言った。

「2日だって？ それだけあれば、きみと俺ならCDを丸一枚録音できるじゃないか」

こうして、急遽、私は最低10曲を準備することになった。前から歌ってみたかったポルトガルのファド2曲は、素晴らしいシンガーソングライター、ラファエル・メンドーサが見事なスペイン語詞を作ってくただけではなく、自分の曲も私の新作アルバム用に提供してくれることになる。

驚いたことに、この話は、翌々日にはフェイスブックで音楽仲間たちに広まって、他のピアニストやギタリストたちも、電話をかけてきてくれた。「自分も参加したい」

あまりの急な展開にうれしい悲鳴を上げながら、録音した.....それがこのアルバムである。

参加者が増えたこともあって、結局、録音は2日で終わらず、別のスタジオも使い、それなりの手間暇もかかったけれど、基本的には、ピアノと歌、ギターと歌という、逃げも隠れもごまかしもできないシンプルな構成

の、けれど、良い意味での緊張感に満ちたすばらしいアルバムになったと思う。

1. ジョローナ (泣く女) この最初と最後のジョローナは、メキシコのオアハカ州の伝統的な死者を悼む歌で、メキシコ人なら誰でも知っている美しいメロディである。それを、我が親友マルシアル・アレハンドロが、私のための詩を書き下ろしてくれ、その少し後に彼は急死した。やがて、メキシコのすべての新聞やテレビが追悼した天才の遺作のひとつが、その美しい詩であったことに注目し、私はこのことで、また伝説に加わることになる。新聞が書き立てたように、この詩で、彼が自分の死を予期していたのかどうかそれはわからない。が、もしそうなのだとしたら、ラテン男の面目躍如だろう。私は一生、この歌を歌い続けざるをえなくなったのだから。

2. ふつうの人たちへの賛歌 すぐれた歌は時代を反映する。この歌を最初に聴いた時、あまりにも今の世相と、その中を生き抜く普通の人々への暖かいまなざしに、私は胸が熱くなった。この曲もマルシアル・アレハンドロの遺作の一つ。本人は公式に録音しないままに亡くなっている。

3. 涙 ポルトガルのファドの女王といわれたアマリア・ロドリゲス自身が詩を書いたファドの名曲のひとつ。私はファド歌手ではないが、この曲はこの時、とても歌ってみたいと思った。

4. クククク・パロマ 9曲を録音して、あと一曲だと思った時に、レコード会社の名物社長モデスト・ロペスが言った「12曲欲しい」。そんなこと急に言われたって....と思ったから、レオナルドが言った。「じつは、君に歌わせてみたかった曲があるんだ.....ランチェラを歌わない?」

ランチェラというジャンルは、通常は、マリアッチを伴奏にしたメキシコ演歌みたいなものだ。それを私が?

「そう。大時代的なランチェラではなくて、叙情的で洗練されていて、君にしか歌えないランチェラ」

そして、ピアノに指を置いた。1954年にトマス・メンデスが作曲した世界的名曲が、違う色で蘇った。

5. 希望について 私の新作アルバムと聞いて、ふだんは気難しいので有名な作曲家のダヴィッド・アロまでがわざわざ、コヨアカンまで車を飛ばして、私に曲を持ってきてくれた。「この曲はいまの君が歌うべきだから」。ペルーのノーベル賞作家セサル・バジェーホの詩に曲をつけた作品だった。キューバ人ギタリストのフェリペ・バルデスのギターに、チェロも参加。バックコーラスは私がその場で思いついた即興一発取りである。

6. 泣きたいだけ泣くがいい ラファエル・メンドーサの書いたタンゴ。タンゴの歌詞といえば、自爆的な失恋をして自虐的に号泣というのが、メキシコ人のタンゴ観で、それをある意味、逆手に取った詩でもある。悲しいから泣くのか、泣くから悲しくなるのか。でも、泣くことがストレス解消であるのも事実。

7. 新たなセヴェーラのファド マリア・セヴェーラはファド創世記の伝説的な歌手。歌手が娼婦と同列と見なされていた時代に、ある身分の高い貴族と報われるはずのない恋に落ち、その切なさを綴った歌とされています。私だって、こういう曲を歌いたくることがあります。

8. わたしを見て マルシアル亡き後のメキシコのトロワ界を背負っていく存在になったラファエル・メンドーサ。欧州公演をはじめ、ここ数年の活躍は凄いのですが、彼の提供してくれたジャズテイストの美しい曲。

9. 愛の苦しみ せっかくギタリストとしてフェリペ・バルデスが参加してくれるなら、と入れることになったキューバの50年代の名曲。フェリペは「フィーリングの女帝」と言われたキューバン・バラードの大歌手エレナ・ブルケの専属ギタリストを長年勤めた凄腕ギタリストなのです。「50年代のキューバのホテル最上階のクラブ・ラウンジの雰囲気、黒いドレスを着たつもりで、目を閉じて」。

スタジオで別々のブースに入って、互いの音だけを聴きながら、完璧な呼吸の録音ができました。

10. 赤い空 この曲もメキシコでは有名なランチェラの名曲。メキシコ民謡ウァパングの色の強い曲でもあるので、少し民謡的に歌ってみました。本当は「ククルクク・パロマ」とこの曲のどちらか一曲だけを採用にするつもりだったのですが、メキシコ人参加者全員の強い意向により、両方採用。私がメキシコでランチェラ歌うなんて、北極でアイスクリーム売するようなものだが、地元の人にそこまで言われては、光栄であります。

11. 三つの言葉 これもナット・キング・コールを始め多くのアーティストが録音している50年代オールド・ラテンの往年の名曲。キューバのオスワルド・ファレの作品で、シンプルなんですけどじつに美しい歌です。

12. あなたに レオナルド・サンドバルの作品から。ピアニストらしい素晴らしいメロディの美しい、ドラマチックな曲です。半音下げてくれという希望は黙殺され、テンポもキーも彼の絶対的指示なのですが、私の声を引き出してくれました。

13. ジョローナ II マルシアル・アレハンドロが私に書いてくれた「ジョローナ」の歌詞は、実は2種類ありました。短い方のこちらも、どちらも葬るにはあまりに惜しく、「オーケストラでやる」「民謡として演奏する」等、いろいろなアイデアがありましたが、冒頭のバージョンと対にするため、あえて、ギターでのシンプルな録音を選びました。

14. 満月の夕 阪神大震災の瓦礫の中で大阪のロックバンド ソウルフラワーユニオンのボーカル中川敬とヒートウェーブの山口洋が作った名曲。私が、東日本大震災のあとに出演したメキシコ・アステカTVの音楽番組『Animal Nocturno』で歌ったのが反響を呼び、急遽、収録が決まった。この曲の録音参加者はみなボランティアで、それぞれメキシコやペルー、アルゼンチンでソリストとして活躍する一流のメンバーがコーラスやサポート

で参加してくれている。

“LAGRIMAS”

Piano:1,2,3,4,7,10,11,12:
Leonardo Sandoval (Mexico)
Piano: 6,8
José Morán (Mexico)
Guitar: 5, 9,13
Felipe Valdés (Cuba)
Cello: 5,13
Javier Platas (Mexico)

Recording:

1-4, 6-8,10-12: Estudio Espiral
5,9,13: Xstudio

Mix Down and Masterization:
Estudio Masruído with Manuel Mora

Bonus Track (満月の夕)

Chorus:

Carmina Cannnavino (Peru),
Carlos Porcel "Nahuel" (Argentine),
Patricia Carrion (Mexico),
Rafael Mendoza (Mexico),
Piano:
José Morán(Mexico),
Guitar:
Carlos Porcel "Nahuel" (Argentine),
Violin:
Ernest Anaya(Mexico),
Bandoneon:
Sergio Bátis (Argentine),

Recorded at Masruído Studio,
Mexico City
Recording Engineer:
Manuel Mora